

## カバーレターについて知りたい！

### ▶ 今もなお重要な役割を果たすカバーレター

オンライン投稿の時代である今でも、カバーレターが論文投稿時に重要な役割を果たしている海外誌は多いようです。例えば *Annals of Internal Medicine* の投稿規程では、次のような指定があります。“We ask that authors give full details on any possible previous or duplicate publication of any content of the manuscript **in a cover letter.**”（「他にどこかで発表していたら**カバーレター**で詳述すること」）、“Authors may list individuals that they do not want to be a reviewer, but must justify their requested exception **in the cover letter.**”（「査読してほしくない人物がいれば、その理由とともに**カバーレター**に記載すること」）。また、*The Lancet* の投稿規定にも、“**Use the covering letter** to explain why your paper should be published in *The Lancet*”（「この論文の発表の場として、なぜランセットがふさわしいのか、**カバーレター**内で説明すること」とあります。このようにカバーレターは、編集者との有効なコミュニケーションツールとして、今も機能しているのですね。カバーレターにはこういった内容を盛り込めばよいのでしょうか？

### ▶ カバーレター、お薦めの書き方

カバーレターに記載すべき事項は、投稿先の雑誌によって異なります。ですから、投稿規定を熟読して指示に従うことを第一としてください。ここでは、一般的にカバーレターに含めるとよい内容について、ご紹介させていただきます。

#### ◆ カバーレターに記載する内容（例） ◆

1. 論文のタイトル。
2. 掲載を希望する雑誌名。
3. 自分の論文が、その雑誌のどのカテゴリーに属するか。
4. 今回の研究についての説明。簡潔に、しかし情熱をもって自分の論文を売り込む。  
(今回のテーマが以前その雑誌に掲載された論文に深く関係している場合は、その記事に言及します。今回の研究がどのようにその論文の内容を深めているか、もしくはそれとどう異なっているかを短く述べておくと効果的です。)
5. なぜこの雑誌に投稿するのか、そして今回の論文がどう読者の興味をひくのかに関する説明。
6. 推薦する査読者名とその連絡先。および、査読してほしくない人名とその理由。
7. この論文が未発表であること。他の雑誌で審査中でないこと。  
(論文の抄録または一部が日本語で発表されていれば、その旨を述べます。もし学会のプログラムのなかで英語の抄録が発表されているなら、それも述べておきます。発表されていても差し支えないのですが、事実言及する姿勢が望まれます。)
8. 著者全員がこの原稿を読み、その雑誌への投稿に賛成していること。
9. インフォームドコンセントを取得していること、および倫理審査委員会から承認を得ていること。
10. 金銭的援助および金銭的利害関係について。
11. 利益相反の有無について。
12. 連絡先として、代表著者(差出人)の氏名・住所・電話番号・FAX 番号・eメールアドレス。
13. オンライン投稿ではなく、実際に送付する場合は、FD や MO など同封物についての説明を入れる。

上記の内容について、オンライン投稿では、投稿画面に直接入力するよう求められることもあります。その場合はカバーレター内に記載する必要はありません。また、カバーレターのほかに“Author Agreement Form”や“Conflict of Interest Disclosure Form”といった書面の提出を求める雑誌も出てきています。出版前に行うべき確認をより確実にを行う方法として、今後導入するところが増えるかもしれませんね。

### ▶ 査読者を推薦していますか？

カバーレターに記載する内容のなかに、査読者の指定があります。これは非常に重要な、アクセプトに近づく方法のひとつです。もちろん、査読者の選択は雑誌側が全権を握っていますが、優秀な査読者を紹介してもらうこと自体は、雑誌側も大歓迎なのです。学会や留学先で培ったネットワークのなかから、自分の研究を正に理解してくれそうな人を選んで、査読者として推薦しましょう。自分と同施設に所属している人や、利害関係がある人は除外します。知人だからといって評価を甘くしすぎず、正にレビューしてくれる人を挙げるのが大切です。編集者が連絡をとれるよう、推薦する査読者の連絡先を記載することをお忘れなく。また、査読してほしい人がいる場合も、それを伝えることに遠慮はいりません。その際は必ず理由を添えます。

#### 「カバーレター、僕はこう考えています」ドクターインタビュー（国立研究所研究員 A さん）

「カバーレターにどこまで書き込むかは、投稿先の編集者と面識があるかどうかによっても異なりますね。よく知っている編集者であれば、相手も自分の名前を見て認識してくれるので、レターでの熱心な説明は省いてしまうかもしれません。医学・科学の世界ではありますが、人間関係がものを言うという部分があることは否めません。学会やその他の集まりで、自分の研究に必要なネットワークを築いていくことが重要だと思います。人脈がない場合、余力の許す範囲で、極力丁寧なカバーレターを作るに越したことはないでしょう。

学会で編集管理の任についていたことがあります。その頃の経験では、編集者が抄録を読んで面白いと感じ査読者に出したけれども、査読者から肯定的な反応が返ってこなかった場合に、カバーレターをあらためて読み、著者の本気具合を測って次のアクションを決める、ということが時折ありました。採否を決めるのは論文内容であることは言うまでもありませんが、審査が際どい場合に、どちらに転ぶかを決める一助に、カバーレターはなりえると考えています。」

### ▶ 大切な研究結果、だからこそ細部まで抜かりなく！

皆様も一度は「欧米の雑誌はアジア人に厳しい」と耳にした、あるいは実際にお感じになったことがあるのではないかと思います。言語面でのハンデも当然ありますが、カバーレターの書き方など基本的なところが誤っていると、雑誌の編集者側としては、「この著者は信用に足るだろうか？」と考えてしまうのではないのでしょうか。そういった小さなマイナスが、アジア人評価に影響を与えていないとも限らないのです。

カバーレターは論文内容を補完するものではありませんから、何よりもまず Abstract と本文の作成に注力すべきです。しかしそこまで頑張ったならなおさら、カバーレターで損するようなことがあっては、本当にもったいないですよね。

膨大な時間と労力をかけた、大切な研究成果。それを発表するために、ぜひどんな細部も抜かりなく、準備して投稿してくださいね。先生方のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

#### [参考書籍・サイト]

- ・『アクセプトされる英語医学論文を書こう!』ネル・L・ケネディ著、菱田治子訳、2001年、メジカルビュー社
  - ・Annals of Internal Medicine 投稿規程、the American College of Physicians <[http://www.annals.org/site/shared/menu\\_authors.xhtml](http://www.annals.org/site/shared/menu_authors.xhtml)>
  - ・The Lancet 投稿規程、Elsevier <<http://download.thelancet.com/flatcontentassets/authors/lancet-information-for-authors.pdf>>
  - ・CHEST 投稿規程、the American College of Chest Physicians <<http://chestjournal.chestpubs.org/site/misc/ifora.xhtml>>
- (上記3サイトとも2010年9月17日アクセス)

株式会社 翻訳センター



<http://www.honyakucenter.jp/>

お電話でのお問い合わせ  
東京 03-6403-9956  
大阪 06-6231-0966